

PRESS RELEASE



2018年9月21日

オープンイノベーションによるICT活用 RFID（電子タグ）を用いた建設部材の一元管理 不二サッシと共同で実証を開始

（株）長谷工コーポレーション（本社：東京都港区、社長：辻 範明）は、不二サッシ（株）（本社：神奈川県川崎市、社長：吉田 勉）とRFID（※1）を用いた“建設部材の一元管理”の実証を開始します。

国内外の産業においてAI、センサー、通信、ロボットなどICT関連技術が進歩・進化しており、長谷工グループにおいても労働者不足や労務費と材料費の上昇、お客様ニーズの多様化（少人数世帯化、高齢化）、環境問題の深刻化等の環境認識のもと、集合住宅の設計・施工における生産性向上や入居者の生活の質向上に向けたICT活用を推進しています。

長谷工グループにおけるRFIDの活用は、「建設部材の生産・出荷・在庫の管理」や「工事進捗の見える化」、「保守におけるトレーサビリティ（追跡機能）」などの実現を目指し、“ステップ1”として2017年7月より長谷工グループの（株）フォリス（本社：東京都江東区、社長：定永 好史）が製作している内装材（木製建具の扉や木枠、額縁など）にてトライアル実証を開始しました。

現在推進中の“ステップ1”においてその実現可能性が見出せたことから、本格運用を見据えたシステム構築の検討に加え、当社グループの垣根を越えて各協力会社との連携を目指す“ステップ2”に着手することとし、外装材メーカーである不二サッシとの実証を開始しました。今後は、更に他の内外装部材にも範囲を拡大し、建設部材の一元管理による業務効率化や、住まい情報と暮らし情報のプラットフォーム（BIM&LIM）構築によるサービス向上を図ってまいります。

（※1）Radio Frequency Identification；無線を利用して非接触で電子タグのデータを読み書きする自動認識技術

【RFIDを用いた建設部材の一元管理】

- ・建設部材の生産・出荷・在庫の管理（製造・加工の管理、出荷品の過不足）
- ・工事進捗の見える化（荷卸し品の過不足、部位と予定品目の照合、施工完了チェック、出来高確認）
- ・再製作データの取得、不具合情報の照合（保守、追加発注におけるトレーサビリティ）



【使用機材・タグ】

■RFIDタグ

ICチップとアンテナを内蔵するRFIDタグに固有のIDを記録。
シール型のRFIDタグを製品に貼り付ける。



■RFIDリーダーライター

RFIDタグに電波を当て、返ってきた情報を読み取る機器。5～10m先のデータを読み込むことが可能（無電力）。上部にはスマートフォンが搭載され、無線通信回線を用いてクラウド上のデータベースに情報を書き込む。



【オープンイノベーションパートナー】

不二サッシ株式会社

本社：神奈川県川崎市幸区鹿島田1丁目1番2号

創業：昭和5年7月7日

資本金：17億円

代表者名：代表取締役 吉田 勉

【長谷工のICT活用】

これまで、長谷工版BIM^(※2)の普及への取り組みや、建設作業所の測量・管理・検査におけるドローン活用やAR・MR技術を用いた検査などについての実証を進めてきました。

今後は、センサーネットワークの構築、AIやロボットの活用、クラウドサービスアプリケーションの開発などICT活用を本格化すると共に、「住まい情報と暮らし情報のプラットフォーム」の構築に向け、各種メーカーやベンチャー企業、大学や研究機関と幅広く連携をとり、オープンイノベーションを推進してまいります。

(※2) BIMの特徴である連動性・可視性・一元性に加え、長谷工グループの設計・施工のノウハウを組み込むことで設計品質と生産効率を向上

